

公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり ～富山市のLRTをはじめとした公共交通活性化の取り組み～



富山市長 森 雅志

富山市の概要

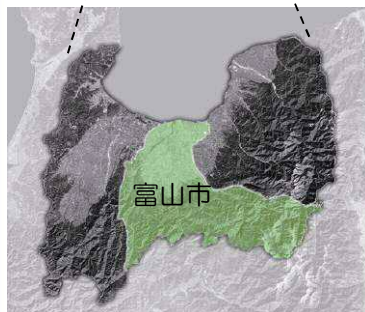


- 人口約42万人、面積約1,200 km²の地方中核都市
- 海拔0m（富山湾）から2,986m（水晶岳）までの多様な地形
- 平成24年度一般会計予算額 約1,573億円
- 環境モデル都市（H20.7）、環境未来都市（H23.12）に選定

■ 日本地図



■ 富山県全図



コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築



＜富山市を取り巻く課題＞

- ①人口減少と超高齢化
- ②過度な自動車依存による公共交通の衰退
- ③中心市街地の魅力喪失
- ④割高な都市管理の行政コスト
- ⑤CO2排出量の増大
- ⑥市町村合併による類似公共施設
- ⑦社会資本の適切な維持管理

富山市は、これらに対応できる地方都市の1つの未来像を提示

1. 公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり

公共交通の活性化、中心市街地や公共交通沿線での都市機能の集積 など

2. 質の高い魅力的な市民生活づくり

中心市街地の活性化、歩いて暮らせるまちづくり、ソーシャルキャピタルの醸成 など

3. 地域特性を十分に活かした産業振興

地場産業である薬業の最大限の活用、再生可能エネルギーの活用、企業誘致 など



持続可能な都市経営を実現し、総合力を発揮した、
「選ばれる都市」へ

富山市のまちづくりの基本方針 ～コンパクトなまちづくり～



鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現

<概念図>

富山市が目指すお団子と串の都市構造

串 : 一定水準以上のサービス
レベルの公共交通

お団子 : 串で結ばれた徒歩圏

<実現するための3本柱>

①公共交通の活性化

②公共交通沿線地区への居住促進

③中心市街地の活性化



中心市街地・公共交通沿線居住推進地区の設定と居住人口の目標

中心市街地・公共交通沿線居住推進地区の設定

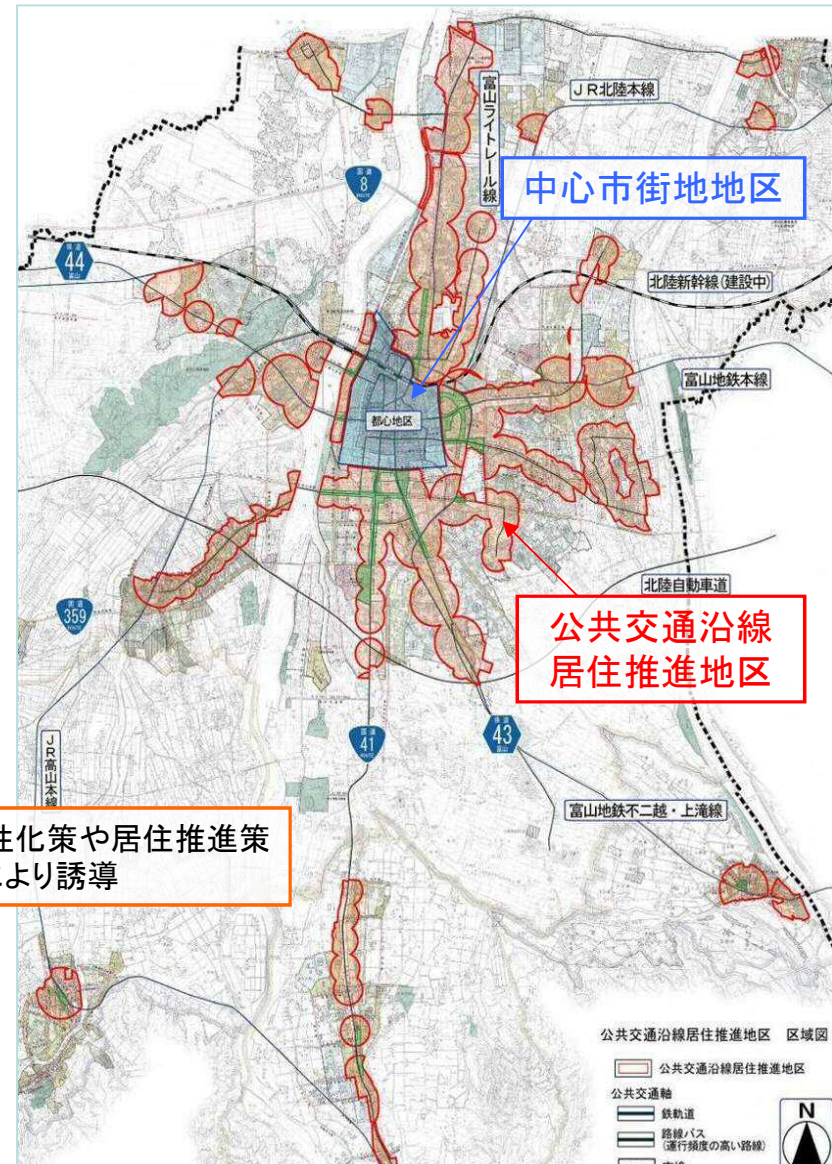
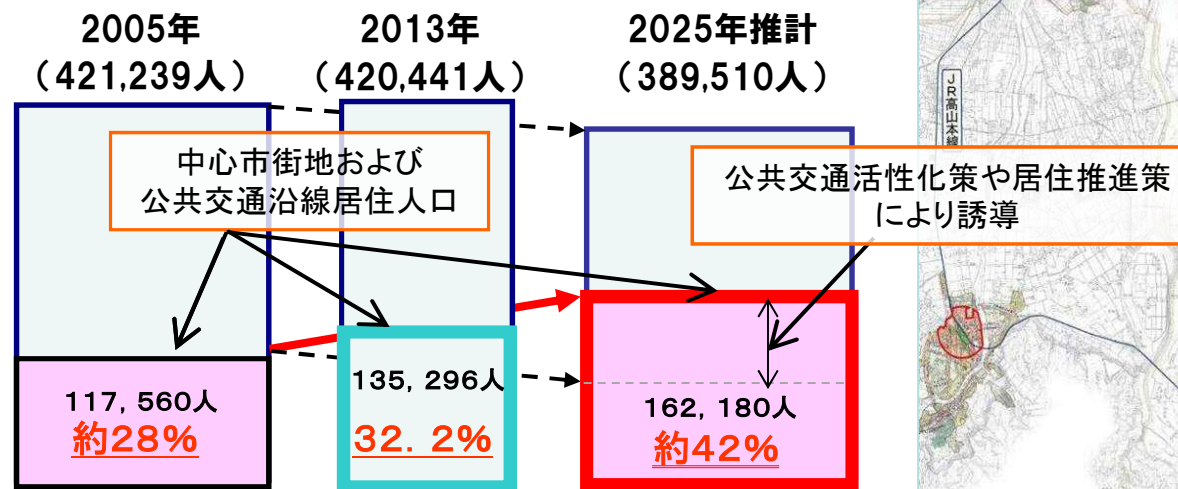
- 中心市街地：約436 ha
- 公共交通沿線居住推進地区：約3,489ha

※富山駅を中心とした19の公共交通軸周辺

- 鉄道、軌道駅勢圏（半径500m）
- バス停圏（半径300m）

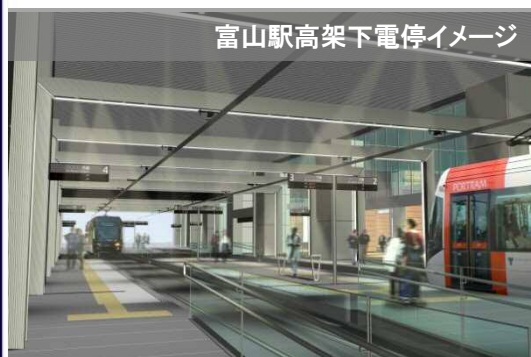
中心市街地及び公共交通沿線居住推進ゾーンでは、良質な住宅の建設事業者や住宅建設や購入する市民に対して助成

＜公共交通沿線における居住人口の目標＞



公共交通の活性化 ～LRTネットワークの形成～

コンパクトなまちづくりの実現に向けてLRTネットワークを形成し、
過度に車に依存しない**歩いて暮らせるまち**を実現



コンパクトシティ宣言
COMPACT CITY TOYAMA

A photograph of a red and blue passenger train, likely a Shinkansen, stopped at a station platform. The train is facing the viewer, and the platform is visible on the right side of the frame.

車両愛称「ポートルム」



-

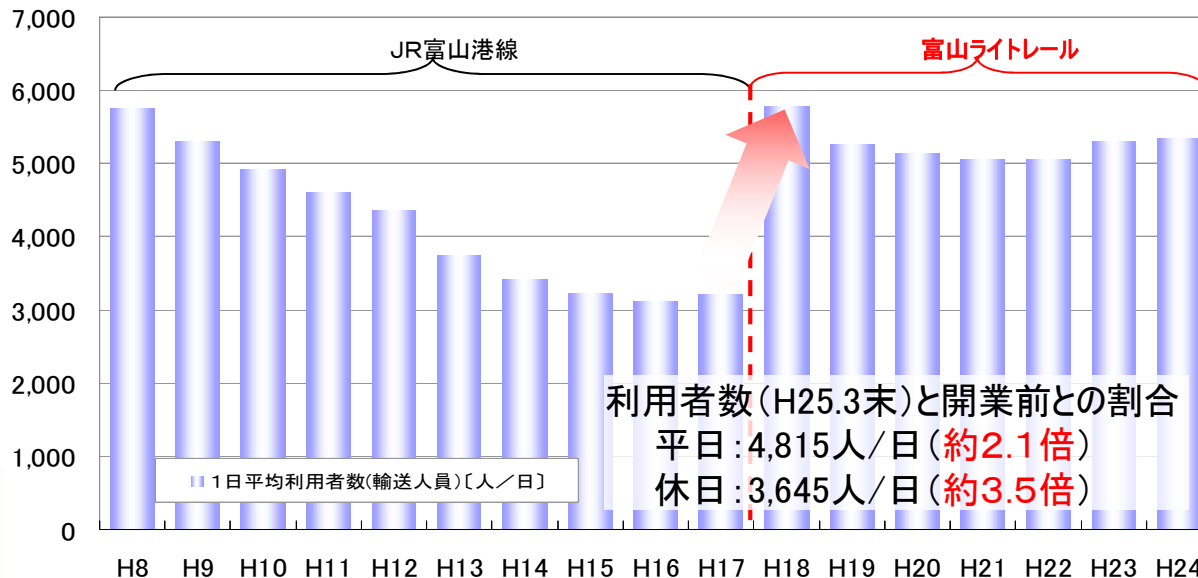


富山ライトレールの整備効果

H18. 4. 29開業

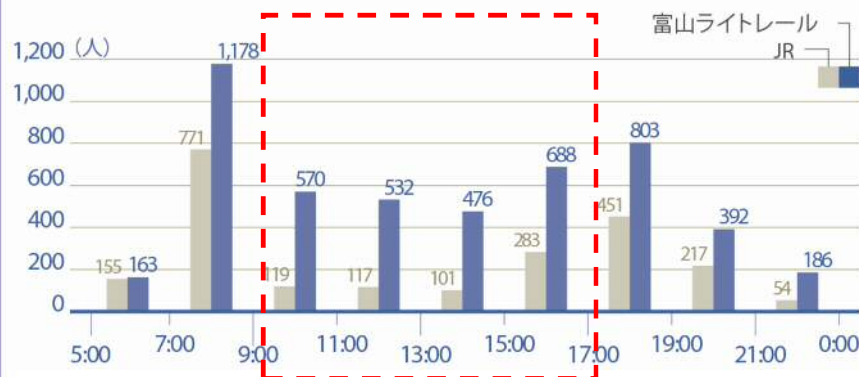


■開業前と比較して、利用者数が 平日で約2.1倍、休日で約3.5倍へと大幅に増加

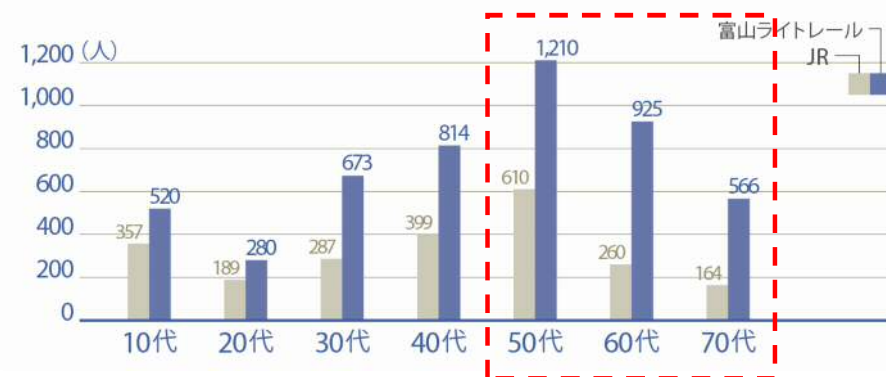


■日中の高齢者の利用が増加 (ライフスタイルの変化)

1日あたり 時間帯別の利用者数の変化 (平日)



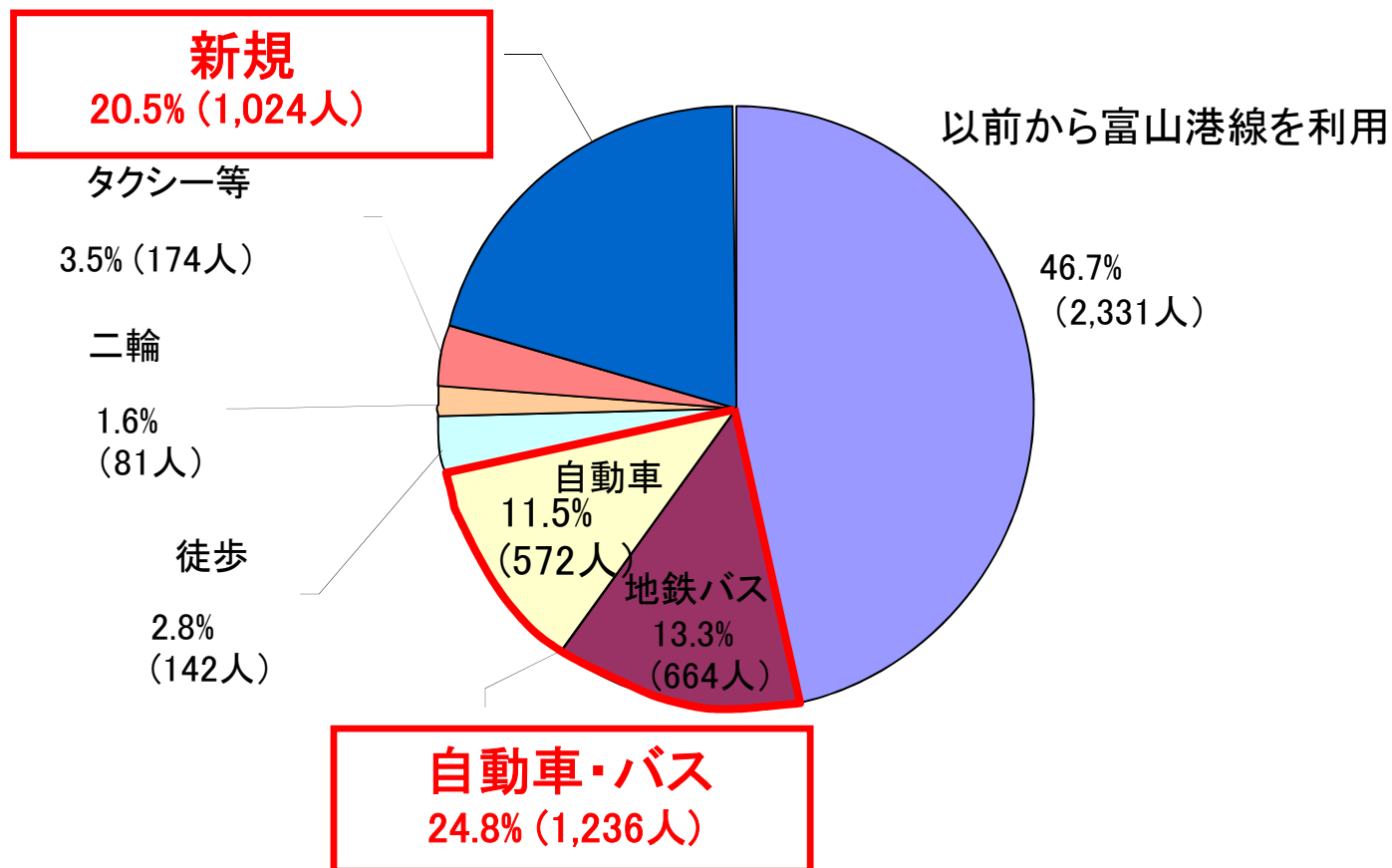
1日あたり 年代別の利用者数の変化 (平日)



LRTは市民の健康づくりに寄与

富山ライトレールでは、それまで出歩かなかった高齢者等が乗降客の2割を占める。

【富山ライトレール利用者の以前の利用交通手段(平日)】



市内電車環状線の整備

H21.12.23開業



中心市街地活性化と回遊性強化を目的に、市内電車を一部延伸

- ・日本初の上下分離方式の導入
- ・魅力ある都市景観の構築に向けた道路空間との一体的な整備

■路線概要

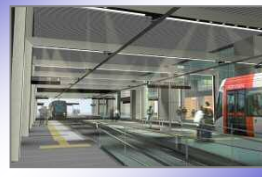
開業日：2009年12月23日
延長：約0.9km(環状区間 約3.4km)
電停：延伸区間に3箇所新設
車両：新型低床車両(3編成導入)

■トータルデザインの導入(車両、電停、道路)

車両愛称「セントラム」



富山駅高架下で
接続(予定)



環状線化事業

利用者数:休日2,805人/日

平日1,959人/日

(開業からH23.3.31までの1日平均乗降客数)

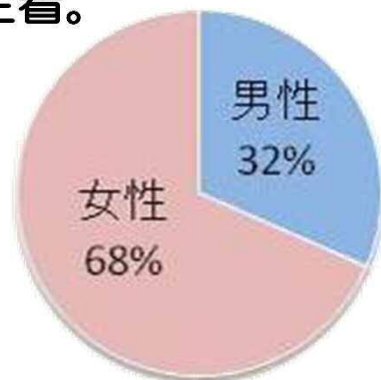
市内電車環状線の整備効果(1)

H21. 12. 23開業



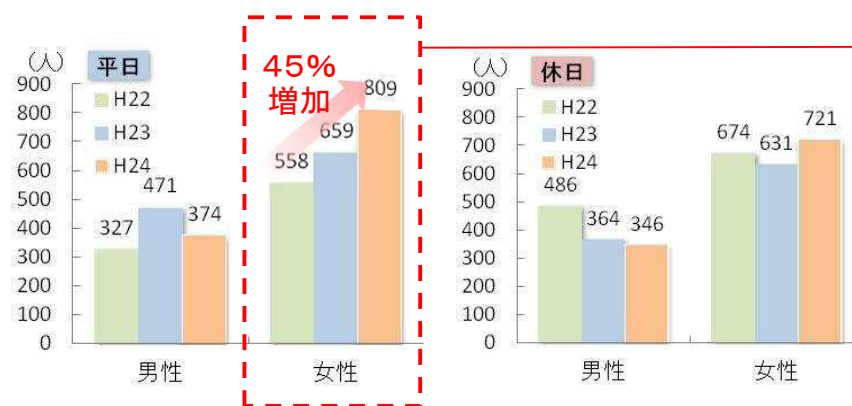
＜環状線利用者属性＞

- 環状線利用者は女性が約7割を占めるとともに、平日では女性の高齢者の利用が大きく増加するなど、高齢者の女性を中心に環状線が日常の移動手段として定着。

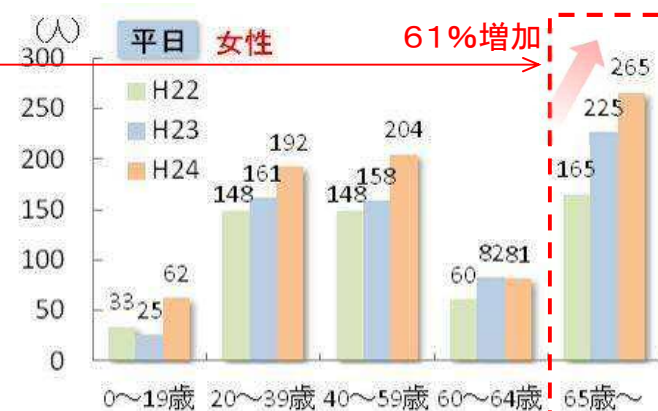


【環状線利用者の性別】

＜H24環状線利用者アンケート調査より＞



【男女別利用者数の推移】



【年代別環状線利用者の推移（平日・女性）】

＜市内電車OD調査より＞

市内電車環状線の整備効果(2)

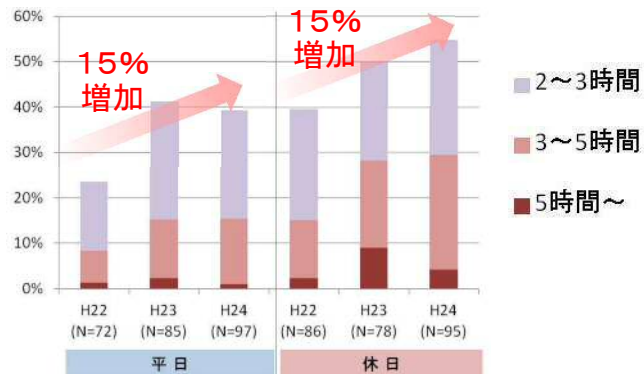
H21. 12. 23開業



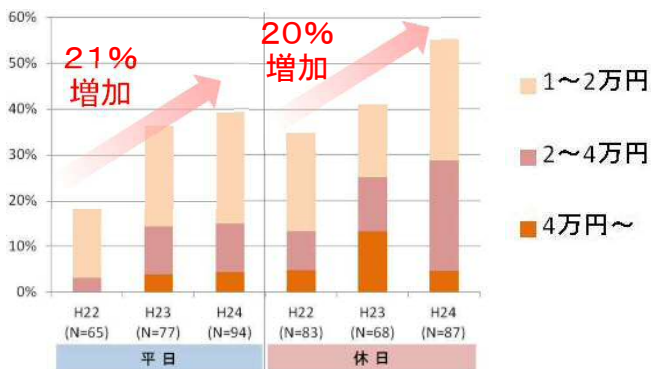
＜環状線利用者の中心市街地での行動形態＞

環状線利用者のうち**中心市街地で2時間以上滞在する人、1日あたり1万円以上の消費をする人の割合が増加**している。さらに、平日の環状線利用者の平均の滞在時間や来街回数、消費金額は自動車利用者と遜色がなく、**休日の環状線利用者は自動車利用者に比べて平均の滞在時間や来街回数、消費金額が多い。**

【環状線利用者の中心市街地での滞在時間の推移】



【環状線利用者の中心市街地での消費金額の推移】



＜環状線利用者アンケート調査より＞

【買物・飲食の際の平均滞在時間（分／日）】

平 日		休 日	
自動車	環状線	自動車	環状線
96分	96分	113分	124分

【中心市街地への来街頻度と消費金額】

買物目的の平均来街頻度（回／月）

平 日		休 日	
自動車	環状線	自動車	環状線
2.5回	6.6回	1.8回	6.0回

平均消費金額（円／日・人）

平 日		休 日	
自動車	環状線	自動車	環状線
¥11,489	¥11,337	¥9,207	¥14,233

＜自動車はH22、環状線はH24利用者アンケート調査より＞

市内電車環状線の整備効果(3)

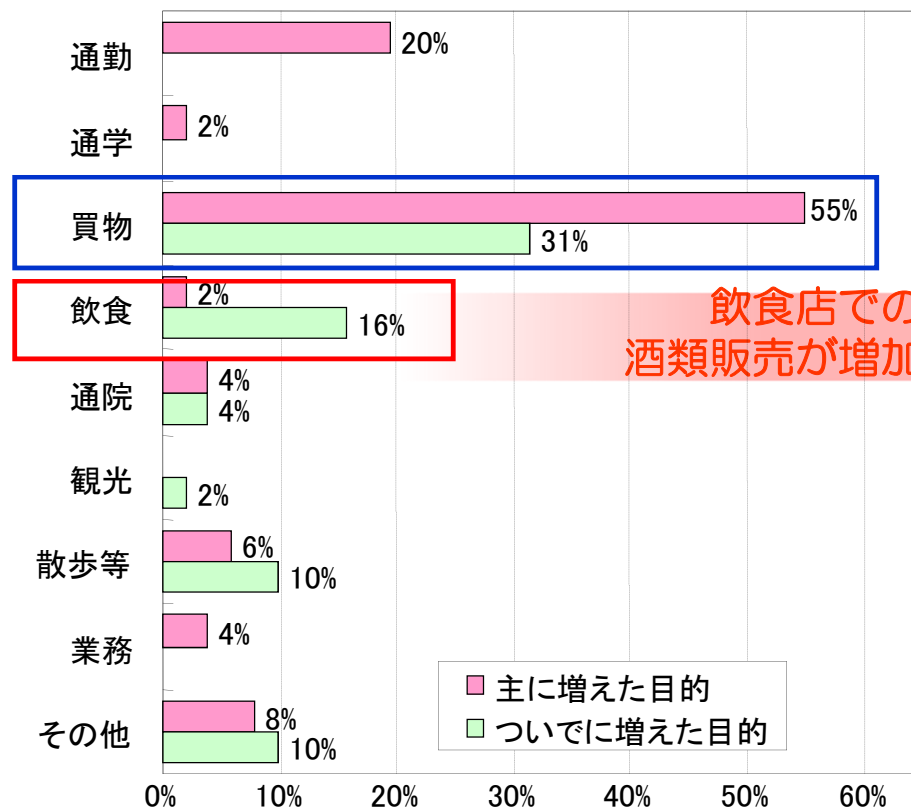
H21. 12. 23開業



＜環状線開業後における利用者の行動形態の変化＞

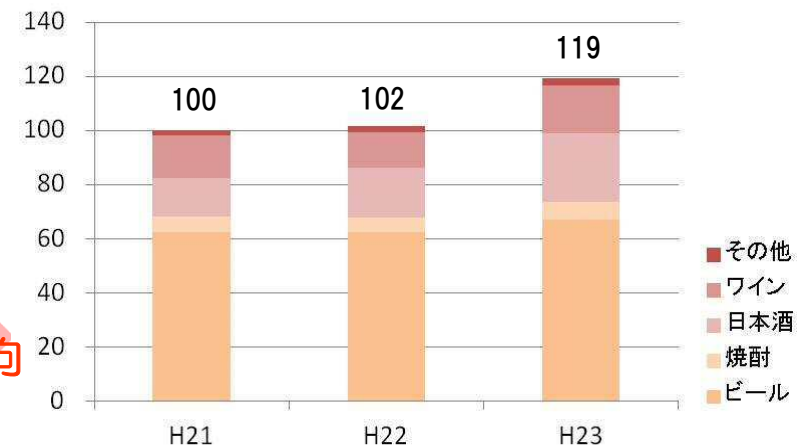
環状線利用者は買物を主目的とした外出機会が増加するとともに、ついでに増えた目的として飲食の割合も高くなっている。

【外出機会が増えた目的】



飲食店での
酒類販売が増加傾向

【まちなかでお酒を楽しむ人が増加】



中心市街地にある飲食店における酒類
販売額の推移 (H21を100とした割合)



生活交通の確保 ～地域自主運行バスの導入支援～

公共交通空白地域の解消や地域コミュニティの活性化等を目的に、地域等が主体となって運行する交通サービスに対し、必要に応じて支援。

支援内容

1. 試行運行時・・・運行経費の100%補助
2. 本格運行時・・・①運行経費の9/20補助
②車両の無償貸与(1台/ルート)

運行中の地域自主運行バス



まいどはやバス
(株式会社まいちづくりとやま)
H13.3～運行



呉羽いきいきバス
(有)まいちづくり公社呉羽
H17.4～運行



富山港線フィーダーバス
(富山ライトレール株)
H19.4～運行



八尾まちなみめぐりバス
(越中八尾観光協会)
H19.4～運行

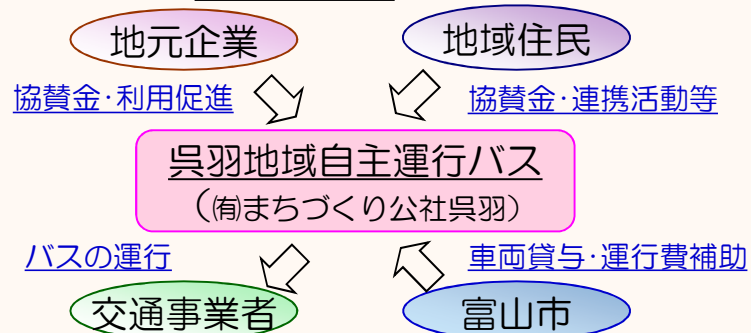


水橋ふれあいコミュニティバス
(NPO法人水橋ふれあいコミュニティバス)
H22.4～運行

導入例：呉羽いきいきバス (運行ルート:2ルート、運行便数:11便/日、運行時間:7時12分～19時56分)

・呉羽地域では、地域住民が主体となって自主運行バスの運営会社を設立するとともに、バスの運行経費は、地域住民や地元企業が費用の一部を負担している。

【役割分担】



運行経費

31,000
千円

運行収入

内 訳

運賃収入 4,500千円	運賃収入(100円/回)
世帯の協賛 2,600千円	世帯協賛金(400円/年・世帯) ※約7,000世帯
企業の協賛 7,900千円	地元企業協賛金 (約90社)
市の支援 16,000千円	補助金(運行経費の9/20) シビルミニマム補助

モビリティ・マネジメント ～「とやまレールライフプロジェクト」～

市民に、普段のクルマの使い方を少しだけ見直し、
「健康・ダイエット」、「環境」や「まちづくり」にも良い
影響のある電車・LRTやバスを“かしこく”使うライフ
スタイルを提案していくプロジェクト



かしこいクルマの使い方
考えんまいけ💡



ラジオ放送での啓発



イベントでのMM



レールライフ・フォーラム



情報誌を活用した啓発



ホームページでの啓発



大学生MM

モビリティ・マネジメント教育 ～交通環境学習～

平成23年度開始



富山市内の教員を中心に授業として活用できる**学習教材**を作成
私たちの暮らすまち、**環境**や**福祉**を視点とした授業内容を展開

<目標>

公共交通の役割や必要性について学び、「**残したい、伝えたい、わたしたちの公共交通**」
という意識醸成を図り、「クルマと公共交通」を**かしこく**使える将来の富山市民を育成する。



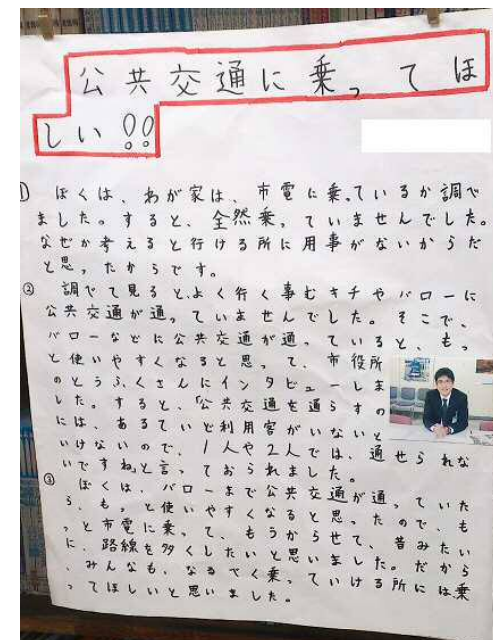
3年間で15クラス(約400人)の児童に交通環境学習を実施
将来的に全市での授業実施を目指す。



ライトレール乗車体験



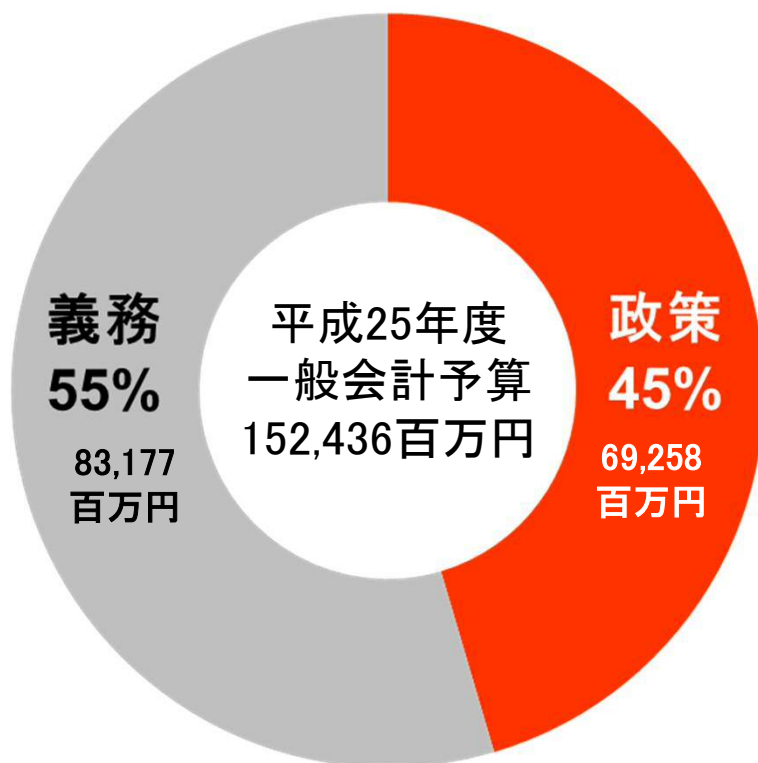
授業風景



児童の調べ学習

公共交通の維持・運行・支援等に関する予算額(平成25年度)

- 富山市の平成25年度一般会計当初予算額152,436百万円のうち、政策的経費にかかる予算は**69,259百万円(約45%)**。
- 公共交通の維持・運行・支援等に関する予算額は**832百万円**であり、一般会計予算額の約0.5%、政策的経費の約1.2%を占めている。



公共交通関連予算 項目	H25 予算額(千円)
富山港線路面電車事業	187,019
ポートラム・シルバーパスカ事業	16,827
市内電車環状線事業(特会含む)	74,985
JR高山本線活性化事業	41,000
上滝線活性化支援事業費	27,357
公共交通活性化補助事業	36,139
イメージリーダー路線整備事業	9,625
おでかけバス・電車・路面電車事業	88,718
コミュニティバス等事業	273,695
生活バス路線維持費	75,126
小中学校通学(JR、バス)定期券補助	1,731
計	832,222

中心市街地の活性化 ～おでかけ定期券事業～

平成16年4月開始

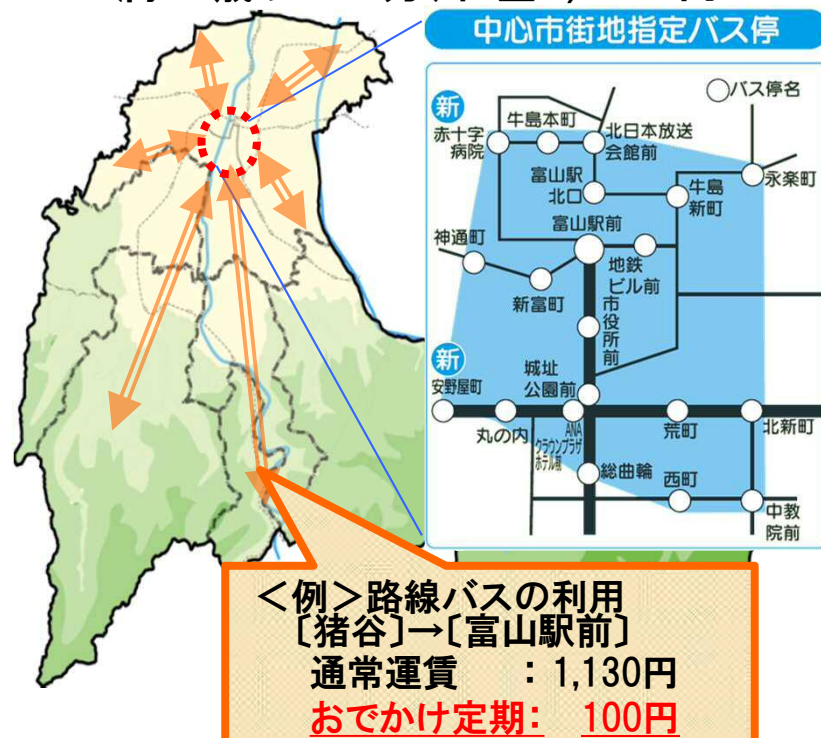


交通事業者と連携し、満65歳以上の高齢者を対象に中心市街地から市域全域どこへ出かけても公共交通（バス・路面電車・鉄道）利用料金を100円とする割引制度を実施

高齢者の約24割がおでかけ定期券を所有し、一日平均2,523人が利用

<おでかけ定期券の申込み>

満65歳以上の方、代金1,000円



<おでかけ定期券の利用>

①利用時間帯: 午前9時～午後5時

②利用区間

富山市内各地

中心市街地等

富山市内各地



中心市街地等 の区間

中心市街地等 の区間

富山市民病院 の区間



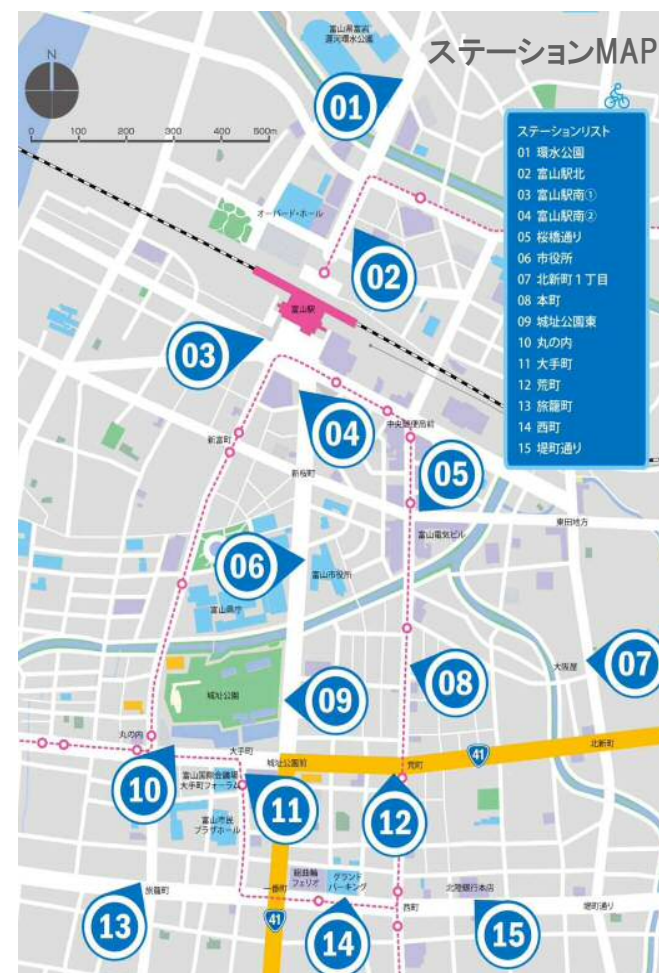
中心市街地の活性化 ～自転車市民共同利用システム(アヴィレ)～

中心市街地の15箇所に設置された専用ステーションから、自由に自転車を借りて任意のステーションに自転車を返却することができる新しいコミュニティサイクルシステムを導入

<システム概要>

- 供用開始 : 平成22年3月20日
- 運営主体 : シクロシティ株式会社
- 自転車数 : 150台
- 利用時間 : 24時間、365日いつでも利用可能

■ 供用開始以来、利用状況は**着実に増加**。平成24年度末で延べ利用回数:44,484人。一日平均利用回数も順調に増加



コンパクトなまちづくりの効果 ～民間投資の活発化～



軽費老人ホーム (H16竣工)
 名称: ケアハウスめぐみ
 用途: 軽費老人ホーム(ケアハウス)
 戸数: 69室

民間マンション (H22竣工)
 名称: プレミスト総曲輪
 用途: 共同住宅
 戸数: 52戸



高齢者向け優良賃貸住宅 (H18竣工)
 名称: グリーンコート野の花
 用途: 共同住宅、デイケア施設
 戸数: 35戸

高齢者も住みやすい「まちなか」整備を推進



借上市営住宅 (H23竣工)
 名称: コーポ窪新町
 用途: 共同住宅 戸数: 24戸

借上市営住宅 (H21竣工)
 名称: イースタウンコート
 用途: 共同住宅 戸数: 24戸

借上市営住宅 (H23竣工)
 名称: リットコーポラス32
 用途: 共同住宅 戸数: 32戸



高齢者向け優良賃貸住宅 (H17竣工)
 名称: シルバーハウス ほほえみ
 用途: 共同住宅、デイケア施設
 戸数: 32戸



介護予防拠点施設 (H23.7月竣工)
 名称: 富山市角川介護予防センター
 用途: トレーニング、パワーリハビリ等



民間マンション (H19竣工)
 名称: シティハウス富山西町
 用途: 共同住宅 戸数: 101戸

凡 例

- まちなか高齢者向け施設
- 民間マンション
- 借上市営住宅

コンパクトなまちづくりの効果 ～CO2削減量～



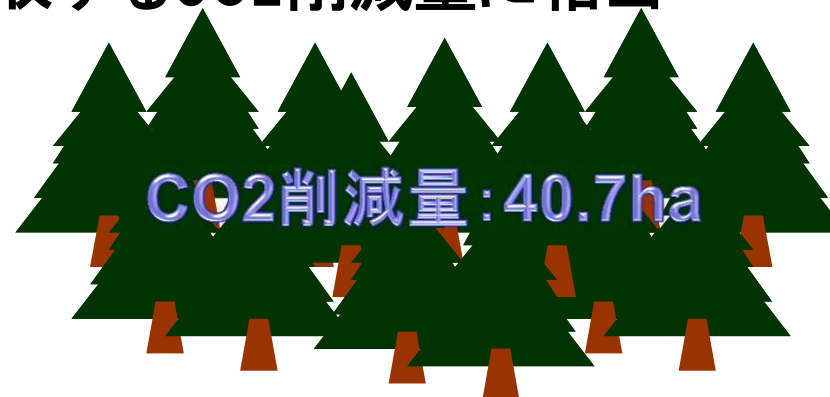
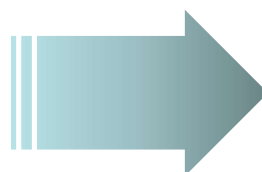
■コンパクトなまちづくりにおけるCO2削減量(平成23年度実績)

施策	CO2削減量	備考
富山港線LRT化(富山ライトレール)	73t-CO2	
富山港線P&R(パークアンドライド)社会実験事業	4.4 t-CO2	
自転車市民共同利用システム(アヴィレ)	3.7t-CO2	
まちなか居住推進事業	6.4t-CO2	
公共交通沿線居住推進事業	230t-CO2	
合計	317.5t-CO2	

森林(杉)面積換算で40.7haが吸収するCO2削減量に相当



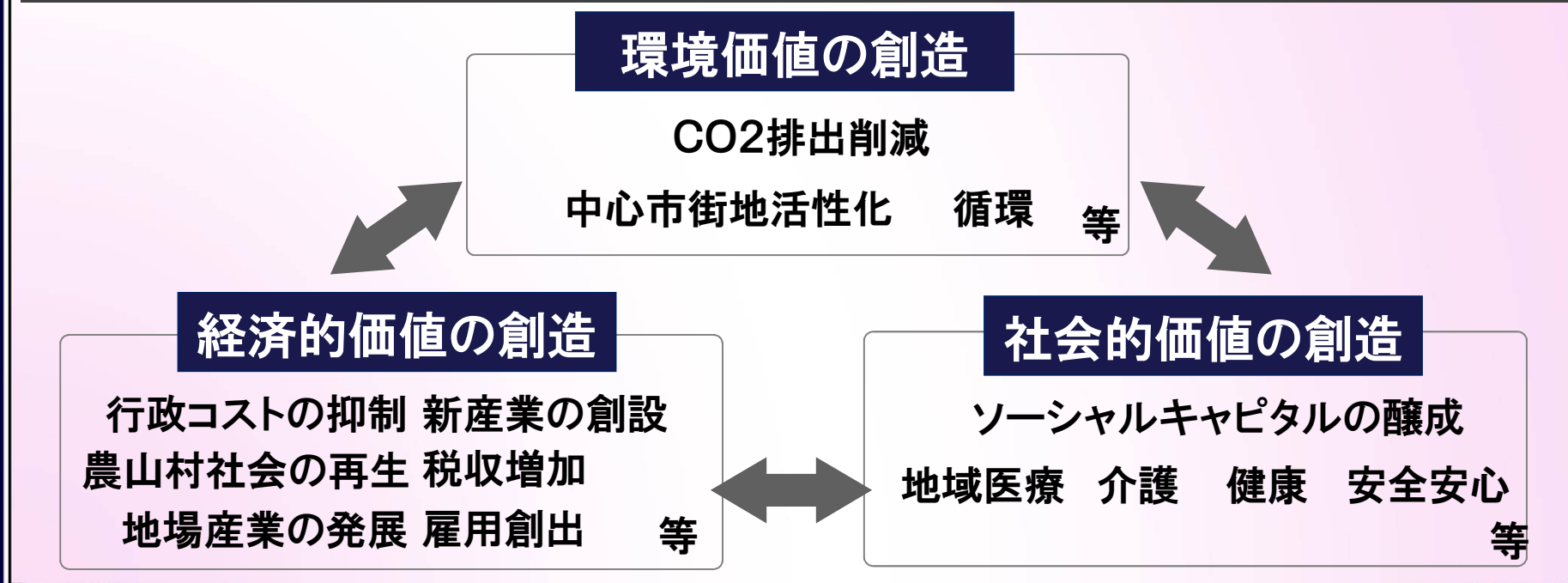
削減量317.5t-CO2



コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築



コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築



環境・社会・経済のイノベーションによる未来に開かれた都市へ

生活の質と環境が調和した「満足度の高い暮らし」の創生により、
持続型社会を実現

